

令和6年度 学校評価（職員）について【概要報告】

県立鹿屋特別支援学校 学校評価係

1 実施期間

第1回評価 令和6年7月17日（水）～7月24日（水）

第2回評価 令和6年12月18日（水）～令和7年1月10日（金）

2 アンケート対象者

学部	事務部					小	中	高	合計
	校長	教頭	事務長	養護教諭	栄養教諭				
人数	1	2	1	2	1	43	33	35	118

3 実施方法

- ・ web方式（Google フォーム）
- ・ URLは全職員が参加している「Google Classroom」と「Microsoft Teams」にて配信^{※1}
- ・ Google フォームは「メールアドレスを収集しない」、ログインを「鹿児島県教育庁のユーザーに限定」、「回答を1回に制限する」で設定を行った。

※1 グループウェア（校内掲示板）では実施のお知らせのみ配信した。QRコードは校務用タブレットが全職員に整備されていないため、使用しなかった。

4 回答率

第1回 99%（117/118名）

第2回 96%（113/118名）

5 評価基準

評価4：十分達成できている（そう思う）	評価3：概ね達成できている（ややそう思う）
評価2：やや不十分である（あまり思わない）	評価1：不十分である（思わない）

6 分析方法

評価値の平均値^{※2}を出して、以下の基準にて、成果・課題・努力項目と分類することとした。

	評価基準	備考
成果 ^{※3}	平均値 3.30 以上	≒評価4が30%いる場合
課題 ^{※4}	平均値 3.00 未満	≒評価2が20%いる場合
努力項目	評価1・2の割合の合計が10%以上	「課題」には挙げられなかったが、目標達成に向けて取組が必要なもの

※2 平均値とは、下記の式で算出した数値を表す。

$$\frac{(\text{評価4} \times \text{評価者数} + \text{評価3} \times \text{評価者数} + \text{評価2} \times \text{評価者数} + \text{評価1} \times \text{評価者数})}{\text{総評価者数}}$$

※3 成果は、評価「3（概ね達成）」と評価「4（十分達成）」の間で検討し、昨年度の基準値「評価4の割合が33.3%以上」を参考に設定した。

※4 課題は、評価「3（概ね達成）」という数値を下回るという考え方から上記のように設定した。

7 第1回結果

「4 分析方法」に従い、成果は**赤太字**、課題は**青太字**で示してある。

分野	項目	視点	質問	小平均	中平均	高平均	全体平均
安心・安全	1	個	児童生徒一人一人を大切にした人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。	3.19	3.33	3.26	3.25
	2	個	家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。	3.23	3.36	3.38	3.31
	3	個	全教育活動をとおして、児童生徒の健康や安全、防災に関する知識、技能を育てることができたか。	3.00	3.30	3.12	3.12
	4	全	医療的ケアを安全に実施するため、信頼関係に基づいた校内体制の整備を行うことができたか。	3.12	3.24	3.15	3.18
	5	全	施設設備の安全点検や管理の徹底、「ヒヤリ・ハット」の共有と事故防止対策を行うことができたか。	3.28	3.33	3.24	3.26
	6	全	実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。	3.02	3.12	3.12	3.08
指導・支援	7	個	個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、一貫性・系統性の充実を図ることができたか。	3.12	3.18	3.03	3.08
	8	全	一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。	3.00	3.06	3.00	3.02
	9	個	I C Tの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。	2.95	3.06	3.12	3.03
	10	個	一人一人の学びの姿や成果を評価し、より良い授業や教育課程のための改善につなげることができたか。	3.12	3.12	3.06	3.09
	11	個	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。	2.81	3.00	3.18	2.98
	12	個	家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。	3.44	3.24	3.29	3.32
地域連携	13	個	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。	2.81	3.15	3.00	2.96
	14	個	児童生徒の社会参加の経験やコミュニケーション力を育む交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	3.40	3.24	3.09	3.24
	15	全	地域の特別支援教育に関する相談支援や情報提供の充実、適切な就学相談の実施に努めることができたか。	3.23	3.21	3.18	3.20
	16	全	本校の教育や、特別支援教育の理解啓発のために、積極的な情報発信を行うことができたか。	3.05	3.12	3.15	3.10
	17	全	児童生徒の教育や将来の生活を支える、医療、福祉、労働等の関係機関との連携協力を図ることができたか。	3.21	3.27	3.29	3.25
	18	全	学校評価、学校関係者評価委員会の結果を基に、学校運営上の課題改善に努めることができたか。	3.05	3.12	3.12	3.11
研修・服務	19	個	かごしま県教員等育成指標に示された資質の向上を目指し、積極的な自己研修に取り組むことができたか。	2.98	3.00	3.12	3.03
	20	全	特別支援教育の専門性や授業力の向上のため、日々の実践的な活気ある学び合いを推進することができたか。	3.07	3.09	3.09	3.09
	21	個	I C Tを活用した授業づくりや業務改善を推進するための研修に取り組むことができたか。	3.19	3.30	3.26	3.22
	22	個	体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。	3.51	3.58	3.50	3.52
	23	全	行事や会議、校務分掌組織の見直し、校務支援システムの活用、教材教具の共有等に取り組むことができたか。	3.07	2.94	2.97	3.02
	24	全	教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。	3.09	3.21	3.26	3.19

8 第2回結果

「4 分析方法」に従い、成果は**赤太字**、課題は**青太字**で示してある。

分野	項目	視点	質問	小平均	中平均	高平均	全体平均	第1回との差
安心・安全	1	個	児童生徒一人一人を大切にした人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。	3.36	3.33	3.29	3.33	+0.08
	2	個	家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。	3.38	3.37	3.38	3.35	+0.04
	3	個	全教育活動をとおして、児童生徒の健康や安全、防災に関する知識、技能を育てることができたか。	3.07	3.17	3.12	3.10	-0.02
	4	全	医療的ケアを安全に実施するため、信頼関係に基づいた校内体制の整備を行うことができたか。	3.05	3.23	3.21	3.14	-0.04
	5	全	施設設備の安全点検や管理の徹底、「ヒヤリ・ハット」の共有と事故防止対策を行うことができたか。	3.29	3.23	3.29	3.26	-0.01
	6	全	実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。	3.07	2.93	3.09	3.04	-0.04
指導・支援	7	個	個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、一貫性・系統性の充実を図ることができたか。	3.07	3.10	3.09	3.05	-0.02
	8	全	一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。	2.93	3.07	3.00	2.98	-0.03
	9	個	ICTの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。	2.98	3.17	3.18	3.05	+0.03
	10	個	一人一人の学びの姿や成果を評価し、より良い授業や教育課程のための改善につなげることができたか。	3.19	3.07	3.18	3.11	+0.01
	11	個	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。	2.93	3.07	3.29	3.06	+0.08
	12	個	家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。	3.48	3.37	3.21	3.35	+0.03
地域連携	13	個	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。	2.90	3.13	3.09	3.02	+0.06
	14	個	児童生徒の社会参加の経験やコミュニケーション力を育む交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	3.24	3.17	3.15	3.16	-0.08
	15	全	地域の特別支援教育に関する相談支援や情報提供の充実、適切な就学相談の実施に努めることができたか。	3.05	3.30	3.21	3.18	-0.02
	16	全	本校の教育や、特別支援教育の理解啓発のために、積極的な情報発信を行うことができたか。	2.93	3.07	3.24	3.07	-0.03
	17	全	児童生徒の教育や将来の生活を支える、医療、福祉、労働等の関係機関との連携協力を図ることができたか。	3.10	3.13	3.29	3.19	-0.06
	18	全	学校評価、学校関係者評価委員会の結果を基に、学校運営上の課題改善に努めることができたか。	2.93	3.03	3.29	3.07	-0.04
研修・服務	19	個	かごしま県教員等育成指標に示された資質の向上を目指し、積極的な自己研修に取り組むことができたか。	2.98	3.10	3.18	3.07	+0.05
	20	全	特別支援教育の専門性や授業力の向上のため、日々の実践的な活気ある学び合いを推進することができたか。	3.07	3.07	3.26	3.12	+0.03
	21	個	ICTを活用した授業づくりや業務改善を推進するための研修に取り組むことができたか。	3.14	3.10	3.24	3.14	-0.08
	22	個	体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。	3.62	3.50	3.65	3.60	+0.08
	23	全	行事や会議、校務分掌組織の見直し、校務支援システムの活用、教材教具の共有等に取り組むことができたか。	3.05	2.83	3.21	3.06	+0.04
	24	全	教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。	2.98	3.07	3.24	3.11	-0.08

9 達成状況や来年度へ向けた取組等

(1) 成果（平均値 3.30 以上）としての項目

全体的な成果としてあげられる項目は、4つあった。

- ・ 項目 1（平均値：3.33）【評価の視点：個人】

児童生徒一人一人を大切にした人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。

- ・ 項目 2（平均値：3.35）【評価の視点：個人】

家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。

- ・ 項目 12（平均値：3.35）【評価の視点：個人】

家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。

- ・ 項目 22（平均値：3.60）【評価の視点：個人】

体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや研修を行うことができたか。

第1回のアンケートから項目1が増え、成果としての項目は4つに増えた。特に項目1と22については、第1回目との平均値の差が+0.08と他の項目と比較しても高かった。

項目2・12・22については、昨年度から引き続き成果として挙げられており、家庭や関係機関と連携しながら児童生徒の支援・指導を行うことができていると考えられる。

また、成果の4項目は全て評価の視点が「個人」であり、学校教育目標に向けて各職員が具体的に取り組むことができていることを意味している。

さらに、第1回のアンケートで「課題」としてあがられた項目11・13については、今回は平均値3.00以上となり、各学部で改善策を実践できたことが大きく影響していると考えられる。（課題を改善につなげることができた）

(2) 課題（平均値 3.00 未満）としての項目

全体的な課題としてあげられる項目は、1つであった。

- ・ 項目 8（平均値：2.97）【評価の視点：個人】

一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。

第1回のアンケートでは含まれていなかった項目8が課題としてあげられた。前回の平均値は3.02であり、小学部の平均値が前回より下がったことで、全体の平均値が3.00以下となった。ただし、評価1・2をつけた割合も全体で12%となっており、前回の8%を上回っている。一方「指導・支援」の分野では、全体的に数値が上昇しており、項目8以外の評価の視点が「個人」であることから、全体での取り組みにもつながっていると考えられる。

記述意見からは、振り返りや改善をする時間的余裕がないことや指導者として教員側の意識改善の必要性があげられている。また、第1回のアンケートからは「カリキュラム・マネジメント」という言葉が評価を難しくしている（分かりやすい表現がよい）との意見も出されており、質問文自体についても検討していきたい。さらに、本校において各教科で育む資質・能力をおさえ、効果的な指導場面や方法を確立していく必要性についても指摘されており、次年度以降も引き続き検討、改善につなげていきたい。

(3) 努力項目（評価1・2の割合の合計が10%以上）

評価1・2の割合の合計が10%以上に該当する項目は12あったが、全学部で10%以上に該当する3つの項目（項目6・13・24）に絞り、努力項目として取り扱うことにした。（項目の焦点化を行った）

- ・ 項目6（評価1・2の合計割合14%）【評価の視点：全体】

実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。

- ・ 項目13（評価1・2の合計割合15%）【評価の視点：個人】

児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。

- ・ 項目24（評価1・2の合計割合16%）【評価の視点：全体】

教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。

第1回のアンケートでは含まれていなかった項目6, 13, 24が努力項目として該当した。第1回アンケートでは、小学部のみが10%の割合に該当し、学部の検討事項として改善等に取り組んできたが、今回、全学部が10%以上の割合に該当する結果となった。（全体の項目として捉える）また、記述意見からは評価の理由について述べられているものもあり、次年度以降も参考にしていきたい。

11 全体を通して

第1回と比較して「成果」項目が1つ増え、「課題」としてあげられていた2項目が「課題」に該当しなかったのは、第1回アンケートからの具体的な取組が有効であったと評価できる。また大まかな傾向として、個人の視点での評価が上昇し、全体での視点での評価が下降していた。

一方、新たな「課題」や「努力項目」も出てきたので、次年度からの参考にしながら、教育活動の工夫・改善のサイクルにつなげていきたい。

また、職員のアンケート回収率100%を目標に取り組んできたが、個人を特定しない方法でwebアンケートを実施したため、未回答者を特定できず、呼び掛けや期間延長など、回収までに時間が取られてしまった。個人を特定できる回収方法にもう一度戻すべきか、ほとんどの人が期間内に実施できている現状もあるので、回収の数値目標の変更も含め、バランスをとりながら進めていきたい。

学校評価委員会では、評価基準に「0」を設定することや評価「1」の人がどのくらいいて、どのような記述があるのかにフォーカスする（改善策の手掛かり）のも一つの方法であるとの意見が出された。少数意見と大きな課題とのバランスを取りながらなるべくオープンな話し合いを設定し、改善へつなげていきたい。

最後に、成果と課題の設定方法については、ここ数年同じ基準を用いているので他校を参考に、変更することで、新たな成果や課題も見えてくると考える。（質問項目の変更や精選を含む）